

第11回小田原市市民活動推進委員会 会議録

1 日 時:平成28年12月19日(月)午後1時～

2 場 所:小田原市役所 601会議室

3 出席者:神馬副委員長、佐伯委員、益田委員、瀬戸委員、堀池委員、山田委員、芳川委員、
竹内委員、遠藤委員

事務局:諸星部長、府川課長、村田担当副課長、小澤主査、川瀬主任

4 欠席者:前田委員長

5 資 料:

- ・資料1-1 平成29年度小田原市市民活動応援補助金 第1次審査実施要領
- ・資料1-2 平成29年度小田原市市民活動応援補助金 第1次審査採点表
- ・資料2-1 平成29年度小田原市市民活動応援補助金 第2次審査実施要領
- ・資料2-2 平成29年度小田原市市民活動応援補助金 第2次審査採点表
- ・資料3-1 第7期小田原市市民活動推進委員会 報告書骨子案
- ・資料3-2 第7期小田原市市民活動推進委員会 答申書骨子案

6 会議内容

■ 開会あいさつ

■ 議題(1)市民活動応援補助金交付事業について(資料1-1～資料2-2)

副委員長:それでは、議題(1)市民活動応援補助金交付事業について事務局からご説明をお願いしたい。

(事務局 資料に基づいて説明)

副委員長:ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

⇒質問なし

■ 議題(2)諮問事項について(資料3-1～資料3-2)

副委員長:それでは、議題(2)諮問事項について、事務局から説明をお願いします。

(事務局 資料に基づいて説明)

副委員長:ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委 員:資料3-1にFAAVOと書いてあるがこれは何の略称なのか。

事 務 局:ファーボと読む。造語だと思うが何の略称かは分からない。1年位前に本委員会で事例報告いただいたHamee(ハミー)株式会社のクラウドファンディングの取組を報告書に掲載したいと考えている。

委 員:報告書・答申書を市長に提出することは従前から聞いているが、その他どこかに行くのか。また、
どう活用されるのか伺いたい。

事 務 局:市長から諮問を受けているため、委員会から市長へ答申いただくこととなる。併せて、2年間の活動報告として報告書を提出していただく。活用の方法であるが、附属機関からいただいた答申書を踏まえて、市は様々な市民活動支援事業を新規に立ち上げたり、制度改正を行ったりということを今までやってきた。今回いただいたものを踏まえて事業の改正、修正、変更、立ち上げのようなことをやっていくことになる。公開される先としては、報告書としてインターネットで開示されるので、どなたでもご覧いただけるような形になっていく。なお、公共施設に配架することはしない想定である。

副委員長:よろしいか。施策に生かされるということである。インターネットで誰もがみられるようになるということである。FAAVOの意味については、今日のところでは分からないということではよろしいか。

委 員:はい。

副委員長:他に無ければ進めて行きたい。では、事務局から説明のあった、資料3-1、資料3-2のところでご委員のご意見をいただきたい。皆様のご意見をいただいた後、休憩をはさみ、報告書、答申書をどのような内容にするか整理していきたいと思う。

委員:私は特に市民活動の団体に属していないので、実感的なものはない。お金のことはちょっとわからないが、集まる場がないということについては、個人的な経験では、小学校の空き教室や各自治会にある公民館を定期的に借りることなどの手法が考えられる。

幸地区では朝6時から7時まで毎日、貸し出していて、良い資金源になっていると聞いている。今、小田原市でも空き家をどう活用するのかということが進んでいるので、そういう空き家の件がはっきりしてきて、こういう団体に貸し出してもいいという所も出てくることで、集まる場に活用できるのではないかと感じた。

副委員長:方策案の場についてのご意見であった。何か反映できればと思う。次の委員お願いする。

委員:市民活動の背景の中に特にUMECOということが、全体を見るとフォーカスされている。昨年度オープンして箱物としては非常に素晴らしいと思う。良く活性化しているし、良く生きている。見た目にも開かれた交流の場という風なところが見られるのも事実だと思う。年齢層が珍しく広い。高校生から高齢者まで幅広いわけではあるが、どうしても高校生は高校生としてその場で使っていることに留まっているので、何かの活動で参加してUMECOに返してほしい。そうすることで、若者のパワーが出てくることにもつながる。その辺のところは、何か考えても良いのではないかと思う。資料を見させていただいた中で、活動資源の現状と課題に「人材」というものがある。これは先ほど事務局からもあったように、各団体によって人材のスキルや求めているものが違う。必要な人材の線引きは、委員会がするのではなく、一般の団体やNPO法人自身が行っていくべきである。私の経験から、「良質」の人材が重要なので報告書に一言入れていただきたい。

せっかく良い場所にあるので、活動の拠点であるUMECOの月曜休館を変えていただきたい。管理料をプラスするようなやり方ではなくて、シフトの改変等で費用をかけなくても施設を回すことができるはずである。それから第4章の各組織への期待の中で、3番の行政の役割に、行政の市民活動に関する情報の一元化とあるが、これは、私が実際に経験した中で、行政間同士が垣根を作っているように思えるので、どこかで一元化してほしいと思っている。特にこれから始まる「地域DMO(観光プラットフォーム)」は、県西としてのDMOなのか、それとも地域のDMOなのか。小田原市はどちらを優先させるのかというようなところを行政として旗を一元化して振っていただかないと、当団体は動きづらい。そういう面からも一元化が望まれると思う。

副委員長:DMOとは何か。

委員:地域の観光の取組である。それを小田原市が取り組むにはどうしたら良いのか。今、県西でも立ち上がっている。東京オリンピック、パラリンピックでインバウンドとして、どうしたらいいのかというようなところである。小田原の地域の人を優先にやるのか、片方は企画政策課、片方は観光課で動いている。これが現状である。企画政策課に行って打合せをして、その後、観光課に行って打合せをすることもある。

副委員長:次の委員お願いする。

委員:私は、市民活動団体には入っていないが、自治会役員やPTAでの活動経験があり、広い意味で言ったら市民活動であると思う。市役所の中で自治会やPTAは管轄が違うので、同じように捉えていないが、本委員会に参加して、自分のやっていることも小田原市の市民活動であるということに気付いた。今、ここで捉えている市民活動というのは、一部の好きな人がやっている活動という捉え方を自分ではしていた。しかし、本委員会で様々なことを知り、皆さん本当に一生懸命活動しているし、何かもったいないという気がした。PTAも自治会も社協でやっている活動もそうだと思うが、全部がばらばらで、大きな動きになっていないので、動いているボランティアの団体が、小田原市のボランティアのような形で連携して情報を持つとか、お互いにやっていることをもっと理解できると良い。

副委員長:情報を一元化することが重要である。

委員:情報が伝わって来ない。ここで言っている市民活動も、普通の一般市民には広がっていないと思う。UMECOに登録している団体は知っているが、そうでない人には、中々広がっていかない。せっかく

やっているのもったいないと思うので。もっと情報をうまく伝える方法があれば良いと思う。

副委員長: 次の委員お願いする。

委員: 「場」について、先ほど委員から話のあったように、地域に使える場があるならまず、そういうところから、使えば良いと思う。また、空き店舗やここは潰れてもらうと困るなというお店の片隅を借りて活動できれば良いと考える。ファミリーレストランのようなところで会合をやっている団体もいるので、お茶を出してくれて、安い金額で、活動場所を提供してもらえれば仕組みができると思う。次は「資金」について、クラウドファンディングと言う仕組みは素晴らしいと思う。例えばお金を集める時に、思いもかけない人が共感してお金を提供してくれる。私もここで説明を受けて私自身も寄附してみたが、すごく良いと思った。ただ、目標金額が10万円となったら、10万円に達しなかったらご破算になる仕組みは残念だと思った。ついでに、集まった金額が少なくてもそれを団体に渡して活動してもらえという、小田原方式のクラウドファンディングができれば良いと思った。それと、個人市民税の10%が、自分の思う活動に募金できるという仕組みをとっている行政もあったと思うが小田原市ではできないか。

事務局: 政策としてはそういったものを選択する可能性はあるが、その分、財政難がさらに顕著になるため、政策判断になると思う。

委員: 私もこれ以上税金を使ってほしくないというのがすごくあるので、クラウドファンディングや企業の出資というのがとても良いと思う。これ以上税金を使うのは反対である。それからUMECOだが、私もボランティアをしたいと思いUMECOに行くようになったが、小田原市の端に住んでいて、車で週4回ほど行くと駐車料金は5,000円近くかかってしまう。地域でも同じことを必要としている方がいるはずだと思う時に、やはり自治会やPTAというのは一番昔からあるボランティア組織だと思う。私が今始めたいと思ったのは、外国人に日本語を教えるというものだが、UMECOだけではなく、すぐそばの公民館で行うこともできると思う。日本語を習いたいという人だったらUMECOまで行けない人は習えないということにつながるので、市民活動と自治会活動がうまく回るように両者が協力できれば良いと思う。UMECOでは、館内で行われる情報だけでなく、地域の公民館で行っている活動の情報も拾い上げてくれる拠点になってほしいと思った。

副委員長: 次の委員お願いする。

委員: この委員会に参加して、私が社会福祉協議会で関わっているボランティアの方と市民活動団体の方が、なんとなく違う部分があるような感じがしているのでうまく言えないが、今回の資料を見て、「人材」の方策案に、「団体会員に対する各種育成講座」と書いてあるが、すでに団体に所属されている方に対しての講座という意味で書いているのか。

事務局: そのとおりである。

委員: それであれば、社会福祉協議会で関わっている団体は、自分たちで講座を開いて新規の会員さんを募集し、仲間を増やせる団体がある。そういう自助努力で講座を開けるところもあれば、中々お金もなくてやっていけないという団体もあるので、新規の育成講座の支援というのも取り入れた方が良いかと思った。また、「場」で、社会福祉法が平成28年4月に改正になり、「もっと地域に貢献するように」ということになって、それぞれ社会福祉法人がそれを目に見えるように改革する必要が出てきた。先ほどの公民館や空き家の活用といったものをすでにされている社会福祉法人もあるが、会議の場や活動の場として話の折り合いが付けば、提供してくれるところもあるのかと思った。第4章に「各組織への期待」とあるが、UMECO自身から「これから自分たちはこういうことができるよ、こうやりたい」という展望を聞いてこの中に入れ込んでもらえると思うのかなと思った。なお、せっかく「人材・資金・場・情報」の4つに着目しているので、図などを出して示すともっとわかりやすい資料になると思う。

副委員長: 資金調達の方法の紹介を具体的にということか。

委員: フローチャート的なものか。

委員: 人材、資金、場、情報をイメージ図のようなもので示せると良いと思う。

委員: 要素が箇条書きになっているのをまとめて「市民活動」をイメージさせるような形か。

副委員長:あとで項目とか構成とかやっていくと思うので、より分かりやすく見やすい物が必要と思う。では、次の方をお願いします。

委員:報告書とか答申書の骨子案の今出していただいている内容や構成は、これまで委員会の中で話し合われたことが盛り込まれていると思うので基本的には特に意見はない。これからの市民活動の理想形みたいなどころだが、基本的に感じる場所は、先ほど別の委員がお話しされたのと同じようなところになる。普段、市民活動でも自治会活動でもいいが、そういったものに携わっている人と、そうでないその他大勢の人に分けられるが、私は間違いなく後者になる。この委員会に出させてもらい初めて、「こんなことをしているんだ、ニッチなところだが一生懸命やっている団体があるんだ」と気付いたが、後者の人たちはほとんどの方はまったく知らないと思う。市民活動そのものを活性化させることは、もう少し先へ行くと、小田原市を活性化することになるので、市民の意識をどうやって「みんなでよくしよう」というふうに高めていくかが重要になる。究極論というところで、かなり実現性は難しいだろうと思うが、そのためには、こんなことをやっているというのが、広く市民に知れ渡るようなものがないといけないと思う。何でもかんでも行政でというのはおかしいかもしれないが、やはりそこは行政が中心になって情報の発信を試みてほしい。今、本委員会に所属しているから、UMECOに足を運ぶ機会をもらって、こういう施設だとわかっているが、この委員会に所属していなければ、駐車場は使ってもUMECOには入らないかもしれない。そうすると、UMECOの掲示板を使っているような情報を出しても大部分の人が目にしない可能性が高い。広報誌も活用されていると思うが、情報の発信が一つの大きな課題かと感じた。

副委員長:次の委員をお願いします。

委員:骨子としてはこれでいいと思う。別件で、小学校6年の社会科の勉強で、歴史が終わると政治、地方自治をやる。小田原市の勉強で、この間、研究授業をやったが、小田原市はどういう風に地方自治を進めているかという中で、着目したのが施設だった。そこで意外だったのが、子どもはUMECOをよく見ている。ガラス張りがやはり良いのかもしれない。「高校生が夜遅くまで勉強しているよ」、「踊っている人たちがいた」、「話し合いもしている」などの声があった。しかし、「いったいどんなことをやることができる施設かな」と聞くと子どもは分からない。そこで、いただいている「UMECOだより」を見せたところ、「こういう風に来るんだ」、「楽しいイベントもやっているんだ」と一生懸命見ていた。人々が楽しく過ごせるようになることを小田原市はやっているのかなという風な勉強をした。大人からすると子どもはUMECOに意識はないだろうと思っていたが、子どもは良く見ているなど思った。こういったところにUMECOの存在意義が現れており、色々な世代の人が色々な関わり方、知り方があるのだと感じた。

副委員長:次の委員をお願いします。

委員:「人材」から考えたときに、高齢化というのも変だが、中々若い人が会に入らないという意見があり、新しい人や若い方たちを会に入れることができる方策があっても良いのではないかと思った。場や情報に関する方策の中で、もう少しターゲットを絞って、例えば企業や自治会、小中学校、高校、大学等に色々な人材が情報発信することや、一緒に活動する機会を作るなど、そういったアプローチや情報発信の仕方があっても良いのではないかと思った。そういうところを通して市民活動というのがどういものかPRができ、活動して行く中で、ゆくゆくは市民活動あるいは、自治会等に参加してくれる人材が育ったら良いのではないか。それから今、他の委員からもお話があったが、UMECOから色々な情報発信をするというのが盛り込まれているが、「UMECO自体がどういうことをしているのか」という根本的な情報も広く発信していくと良いのではないか。下手するとUMECOは駐車場と貸館のようなイメージで捉えている方も多くて、一生懸命に市民活動をしている人がいることがあまり知られていないのかもしれない。UMECO自体がこういうものであるという多方面への情報発信があると良い。それから第4章「各組織への期待」だが、UMECO、企業、行政の役割とあるが、市民活動団体自体も行政に対して期待するだけでなく、何か自分たちで行っていく方向性を見つけ出せると良いと思った。そ

れが答申の中で表現できると良い。

副委員長:私は1日の中でたぶん自分の家に必要なこと、報酬を得るためにやっていることが本当に少なく、その他のことに時間を費やして何十年と経つ。私も団体のメンバーも同様に年をとってきて、新しい人は多少入るけれど高齢化して活動が縮小してという、色々な活動団体がたどっている道をたどっていると思う。場所であるとか、他団体の情報はとても貴重である。私は駅の近くに住んでいてUMECOまで自転車で行けるので良いが、そうでない方であるとか、私はインターネットを使って情報を取れるがそうではない方とか、色々な方がいるので、小田原市の市民活動の推進ということで何か意見を市に提出するのであれば、街なかに住んでいるから有利ではなくて、どんな方のどんな活動でも支援につながるようになって良い。UMECOはすごく良い施設で、これからもみんなで育てていく感じの施設だと思っているが、小田原市の方たちがどこにいてもどんな状況でも市民活動に参加しやすいような市になればいいと思う。ずっと仕事をしていて定年になってやるものがなくて、というのではなく、仕事をしている年代の方でも、子育てをしている方でも、介護している方でも、独身で働いている方でも、自分のためだけに時間を使うのではなく、ちょっと誰かのために使う時間が気軽に持てると良いと思う。「ちょボラ」という言葉もあるし。周りを見て何か一つでも良くなるような活動ができればいいなと思う。具体的になくて申しわけない。

委員:「ちょボラ」、ちょっとできるボランティアが私は理想だと思っている。それは、ボランティア・市民活動の未来のあるべき姿にも私の中ではつながるが、例えば子育てして働いている間はボランティアをやっている余裕がないというのが今の日本の現状だが、ボランティアは交流が目的ではないけれど、ボランティアをすることによって、いろんな交流ができるのは魅力だと思うので、若い人も「ちょボラ」に参加できるような仕組みが作れると良いと思った。

副委員長:これまで様々なご意見をいただいたので、項目ごとに、付け加えるだけでなく、別テーマが良い等あれば答申に入れて行きたい。資料3-1報告書の構成はいかがか。良くまとまっているというご意見もいただいた。⇒全委員了承

副委員長:諮問事項は、「市民活動の活性化に向けた資源の確保のあり方について」の答申。また、テーマ1は「おだわら市民交流センターUMECOについて」、テーマ2は「提案型協働事業・市民活動応援補助金制度の運用見直しについて」だが、ご意見が出なかった。書類の簡素化や結果の公開等に触れているので、私もこれで良いと思う。

続いて、答申書の構成についてご意見があればお願いしたい。はじめにがあり、第1章「市民活動の背景」、第2章「小田原市における市民活動の現状と課題の整理」。1の活動資源の調査が、(1)現状分析の必要性、(2)調査方法、2の活動資源の現状と課題は、人材、資金、場、情報について4つの項目がある。第3章「市民活動の活性化に向けた方策」では、全体像と4つに分けて方策案が入っている。第4章「各組織への期待」として、UMECO、企業への期待と行政の役割があるが、当の市民活動団体はどうなのか。各組織への期待が、この3つだと足りないと思う。市民活動団体自体の役割もあると思うので、入れたほうがいい。構成については、後からでもご意見をいただきたい。続いて、内容について整理をしたい。協議内容に必要な要素があるか。今までの協議結果と合っているか。加えた方がよい内容等があれば、報告書、答申書を含めてご意見をいただきたい。先ほどのご意見が、ここに当てはまれば、ご意見いただきたい。

委員:UMECOは、行政の立場もあるが、指定管理者制度にして、会議室の貸し出しだけではなく、中間支援施設として幅広い活動が求められている。かなり広範囲でやっているのだから、市からの評価だけではなく、第三者からの評価の必要性があるのではないか。

副委員長:私達も何度か指定管理者からお話を聞いたり、実際にUMECOの視察に行ったりした。この委員会のメンバーが入り、UMECOの運営委員会が開かれると思っていたがどうか。

事務局:UMECOで設置している会議体があるが、市民活動推進委員会としては、入っていない。利用者の団体から選定して、利用者会議に近い場は設けている。今年度は2回開催する予定と聞いているが、

1回は実施済みとなっている。UMECOの施設ができる前に、本委員会委員が加わった会議体があった方が良いという話もあったが、現状では、市の市民活動推進委員会とUMECOの会議体とは別に存在している。

副委員長:モニタリングは、具体的にどう実施できるのか。

事務局:本日も欠席だが、委員長は、色々な指定管理施設をモニタリングしてきた経験をお持ちである。他市で指定管理施設を持っているところは、第3者が評価するように、モニタリングの専門の委員を置いているところもある。UMECOは利用者の年齢層も広く、団体や企業、行政等、使う幅も広い。また、利用者向けの様々な事業もあるので、それをブラッシュアップするには、モニタリングの必要性のある場所だと委員長は以前からおっしゃっていた。モニタリングとは、評価項目を作り、外部評価委員会の評価を元に、改善点を直し、良いところは継続してもらう仕組みである。

副委員長:一足飛びになるが、UMECOへの期待に、運営方法の改善があるが、誰がするのか明言は難しいが、そこへ外部評価の文言を入れるか。利用者ならでは意見もあるだろうが、利用していなくても色々な視点で評価できる人はいると思う。利用状況や利用者意見を踏まえた運営方法の改善に、もう一步、第3者評価の項目が入れば、そういった考え方もあると文章に残って良い。

委員:例えば、月曜日に開館して欲しいこともか。

副委員長:月曜休館なしと書くと直接的すぎるが、休館日が具体的に入ってもいい。入るとしたらここだと思う。

委員:休館日の見直しは、押し付けるものではないので、ここに入るのが良いかもしれない。

副委員長:良いご意見をいただいた。まとめれば運営方法の改善だが、きちんと伝えたいものがあれば、この中に入れる。

委員:利用者の意見とあるが、利用していない人が、なぜ利用しないのかも大切。それが分かれば、UMECOが更に開かれていくので、使わない人の意見も聞いてみたい。

副委員長:それが改善されれば、もっと利用されるかもしれない。色々な方策が箇条書きになっているが、もっと見せやすい形でというご意見もあった。答申書は、全体像があり、理想的な市民活動の状況、市民活動が容易に始められる土壌、中間施設の方策の出現等と、具体的に人材、資金、場、情報が書かれている。今は、紙面の都合で「等」となっているが、委員も人材育成をおっしゃっていた。

委員:社会福祉協議会の職員の立場からすると、会員の資質向上研修は、本当に自分達の自己努力でやってほしいと思う。ただ研修会を市民に広く知ってもらうために、市広報やホームページに出す時のテクニックは、全ての人ができるわけではない。社会福祉協議会で支援している講座は、必要な福祉技術を途絶えさせないために、会員を募集するためで、講師謝礼等で補助金を支出してお金もかかる。

以前はシルバー大学があったが、なくなってしまった。最近では、手品や紙芝居を色々な福祉施設や学校に提供している団体に、新しい会員が入ってこない。そうすると、高齢化し、移動の手段も大変だが、求められている声が大きいため、すごく大変そうである。社会福祉協議会とUMECOで、そういう会を市民に紹介し、やりたい人を募集できたら良いと思う。そういう新規の会員を募集するきっかけとして、講座は良い手段だと思う。

副委員長:ここだと、団体会員に対する講座だが、そうではないのか。

委員:新規会員を増やすための育成講座。

副委員長:会員拡大のための支援なのか。

委員:そうである。

副委員長:調査してこういう意見もあったと思うが、団体会員に対する講座はいらぬのか。

委員:その団体が判断して、必要なら団体がやっていく。そのために、何ができるのか。

副委員長:団体会員に対してと書いてあるから複雑。団体に対してと表現すれば良い。

委員:団体の活動を継続するために必要である。一番難しいのは、人材の継続性。当然年を取るのだから、入ってこない年齢は上がってしまう。シルバー大学が良かったのは、2年や3年で卒業し、次を募集し

てくれた。今度は自分達で募集や育成をしなければいけないから大変である。

副委員長:人材に関する後方支援があればいい。方策は重なってしまい、ホームページだと、情報に入れば良いとなるが、それは整理していきたい。人材の継続性は良いと思う。1の人材と2の資金にあるが、法人と任意団体は、全然違うと思う。調査の時も顕著に差が出た項目があるが、答申を出した時に、分けて記載する必要はあるか。

委員:法人とは、NPO法人か。

事務局:調査結果の報告の時も説明したが、法人はNPO法人に限っていない。一般財団法人や社団法人等、法人の種類も複数ある。

委員:給料をもらっている所もある。

事務局:NPO法人や社団法人は、一定の基準により報酬をもらっても良いことになっている。

委員:法人によって資金を得て円滑に運営している所とそうでない所がある。委員の言われていることは、支援を必要としているかどうかで判断できれば良いと考える。

事務局:今回検討いただきたいことは、活動をはじめたいが資金が足りないなど、活動をする上で課題のある団体をどう支援していくかである。

副委員長:法人と任意団体とでは、求められるアプローチの手法が違うと感じる。

委員:その差を区別できるようにしたら良いと思う。法人の中でも資金等に差異が生じてきているのは確かだと思う。

委員:人材を例にしたとき、市では任意団体・法人にそれぞれ分けた具体的な支援策を検討しているのか。

事務局:地域政策課では具体的な事業実施の想定はないが、UMECOでは、NPO法人に視点を当てた講座や相談会などを2月に予定している。市としては、今回の答申に盛り込まれた内容の実現先として、UMECOでの事業実施は想定される。

委員:市民活動を支援して行くには、任意団体・法人に関わらず、それぞれの団体にとって課題や求めているものが違うので、様々な支援策があることを周知し、団体が必要なものを選択しやすくすることが大事ではないか。

委員:委員の言われるように団体の意向にあった支援策が必要である。

委員:シルバー大学は良かったと聞いている。受講生が卒業後の活動として、現在もうまく継続しているものとそうでないものがあるそうである。市からの支援があれば、再びこの流れを作ることができるのではないか。

委員:本委員会では、市民活動をどのように活性化するかを検討を求められている。私は、今活動している団体で、困っていることを抱えている団体に対して支援して行きたいと思っている。シルバー大学を再開して裾野は広がっても、市民活動の活性化につながって行くかは分からない。

事務局:一定の年齢以上の方が受講できるシルバー大学の終了は、生涯学習事業の全体のあり方を変革したもので、高齢者に特化することをやめ、切り替えたものである。成人学校などもなくなり、現在では、まちづくりや今日的な課題の解決につながる講座にシフトしてきている。他の委員の話でもあったように、団体の自助努力により活動の継続や会員育成を求めることが必要になってきていると感じているが、実際にガイド協会は育成講座をやっていた。

また、本日の議論を聞いて、今回お示した答申書骨子案は団体視点で作成していたが、市民活動を行っている人は団体だけではなく、個人の方もたくさんおり、個人目線に立った内容も必要だということに改めて気付かされた。活動が活性化するためには個人目線も必要である。

なお、方策案を任意団体と法人に分けて記載していくかという件では、分類して具体的に分ける必要があれば、そのように類型化することも良いと思うが、議論をお聞きし現段階ではそのように明確に分けなくても良いと感じている。委員からも話があったが、市民活動団体と自治会は広く見れば、いずれも市民活動であり、市内では様々な団体が市民活動をしているので、複数の団体が連携で

きる土壌を作ることが大切になってくる。

この他、情報の一元化や人材のあり方、UMECOを利用していない人へのアプローチなど、本日は、答申書をまとめていく上で、必要な要素をたくさんいただいたように感じている。いただいた要素をどのように取りまとめて答申書としていくかは難しい部分もあるが、貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。

委員：講座を修了された方への活動先の紹介や、どこに相談したら活動できるかなど、一つ一つのつながりが見えて来ない。これが見えて来ると参加する人や相談に来る団体も増えると思う。

事務局：まだ、十分ではないが、UMECOがそういったことに対して、果たして行く役割は大きくなっていると感じている。何かあったらUMECOに相談するというのが、多くの方に認識していただけるようにしたい。

委員：そういう点が、今は分からない。

事務局：そこがまだ機能しきれていないと言うべきか、伝えきれていないと言うべきか、見えにくい部分があり、市としてもいろんなジレンマを抱えている。

副委員長：色々な団体に対して必要な支援は千差万別だと思うが、アイデアをたくさん出してご意見が提言できれば良いと思う。それで、現状や課題が分かって、「小田原市の市民活動がこうあったら良い」というのをこの答申に盛り込めたら良いと思っている。そういった理想的な意見が最後のまとめに入ってきたりすると思う。何か一言だけ最後に言っておきたい、こういうのを入れたら我々らしくていいのではないかというのがあればお願いしたい。“必要な方策”のところ、“例えばこれ”みたいなものがあるとわかりやすくして良いのではないか。

委員：具体的に、35歳で、子どもが2人いる女性がちょっとボランティアしてみたいと思ったら、子どもをどうやって預けたら良いかということなどか。

副委員長：今は具体的に思い付かないが、また見ていただければと思う。アンケートで回答していただいた中に、「こういうのがあって良い」という回答を持ってきても良いと思うが、調査結果を活かしたいと思う。前半でいただいた意見も踏まえて事務局にまとめていただくことになる。ぜひ、小田原の市民活動の活性化に貢献できるような答申にしたいと思う。

■その他

副委員長：その他について、事務局からお願いします。

事務局：次回以降の日程調整をお願いしたい。

(事務局説明)

副委員長：調整の結果。第12回は2月13日(月)午後1時30分から。第13回は既に調整させていただいたが、3月12日(日)に市民活動応援補助金の第2次審査、午前がプレゼン、午後が審査となる。また、提案型協働事業・応援補助金報告会については、6月18日(日)か25日(日)のいずれかの午後からUMECOで実施する。以上で、第11回小田原市市民活動推進委員会を終了する。